

を必要と致すのであります。

本年度の國家總動員諸計畫は昨年度と同様

一、物資動員計畫

二、生産力擴充計畫

三、國民動員計畫

四、生活必需物資動員計畫

五、交易計畫

六、交通動員計畫

七、電力動員計畫

八、資金統制計畫

の八つの計畫から成立つのでありますが、之等の諸計畫は互に有機的

の關係を有するものでありまして、物資動員計畫を根柢として進展して参るのであります。夫れ故茲には主として物資動員計畫に就て若干の御説明を申し上げます。諸官御奉公の資に供する次第であります。先づ第一は物資動員計畫の性格であります。夫れは今日では物動即生産計畫であるといふ本質を明かにして來たことでありませす。即ち大東亞戦争以前の様に不足物資を海外に仰ぐことの多かつた時代とか或は貯藏の豊富であつた時代とは異り、今日では全く自力に依つて生産するものを以て物動の供給力と致さなくてはならぬからであります。此の供給力を以て一方に於ては戦争の現段階に伴ふ尨大なる物資の消耗を補填充足し他方に於ては將來の必要に應ずる再生産力の擴大に備へますと共に更に戦時國民生活の需要を充たさねばならぬのであります。

す。

従つて此の物動計畫の本質の變化は生産行爲の上に色々の要求を致すのでありますが、其の根本とする所は自己擔當部面の配給取得は既に之を確守しつつ物動に擧げられた生産を確保しますことは勿論汎有の創意と工夫とにより更に進んでこれを突破せねばならぬといふこととであります。之れが爲には

(一) 生産に必要な要素である資材、資金、勞力、輸送力、動力等を最も效率的に活用せねばならぬこと

(二) 生産の技術、經營上に於ける創意工夫が活潑であらねばならぬこと

(三) 生産關係の行政が最も神速果敢で而かも調和のあるものであらね

ばならぬこと

(四) 生産に關する時の效用が遺憾なく發揮せられねばならぬこと
等々あるのでありまして、之等が相互の調和の上に伸展して参らねばなりません。

次に我國物資動員計畫の策定並に實行上最も留意すべきことは「物動計畫の基礎が輸送力特に海上輸送力に存すること」であります。即ち今日皇國の威徳の下にある地域内の資源は實に驚くべき種類と數量に上るのでありまして、資源の點及人力の點から申しますれば今日我國は世界の如何なる國よりも優位となつたのであります、其處で必要な事は一刻も速に此等の資源を國力化し、戦力化することでありまして、此の國力化、戦力化の爲には其の資源の賦存状況から致しまして多大

の輸送力を要するのであります。殊に帝國領土外の資源の活用の爲には莫大の船腹を必要とするのであります。然るに此の船腹は同時に作戦の活潑なる伸展の爲にも絶対に必要なものであります。従つて作戦の遂行と国力の保持増進との調和に就ては政府は常に統帥部と緊密なる連絡協調を保ちまして不斷の努力を致して居るのであります。而して輸送力増強の爲には

- (一) 造船能率及船舶修繕力の徹底的強化、と
- (二) 船舶の消耗率を減少することへの努力、と
- (三) 海陸綜合輸送力の能率發揮

とに國家の努力が集中せられねばなりません。本年度の物動計畫に於ては特に此の點を重視して思索案發致して居るのであります。

以上の如き本質に立ちまして初めに申上げました國民戰時生活確保と軍需生産力の急速増強との二點を狙ひ、^{物的}戰力増強の最高重點を戰時食糧の確保と鐵鋼、石炭、輕金屬、船舶、航空機の所要數量の充足さに置きまして計畫致して居るのであります。

而して此の所要數量は一方に於ては作戰上の要求から來ます軍の需要及將來の所要に應ずる再生産力の擴大と國民生活の確保との必要より生れます要求面と他方勞務、資材、輸送力、資金其の他の生産要素から來ます供給力の面とを調和致しまして総合的・最高能率を發揮し得る如く決定致す次第であります。

以上國家總動員諸計畫就中物動計畫の本質に就いて申述べたのであります。以下之に關聯する重要事項の二、三に就いて其の大體の趨向を説明致し度いと存じます。

第一 輸送力に就て

大東亞戰爭勃發以後數ヶ月の間は船舶に依る民需用物資の輸送實績は常に計畫量を相當に上廻るの實情を示してゐたのであります。昭十七年度上半期以降に至つて民需用として働かし得る船腹が次第に減少し、従つて物動物資の輸送量も其の當初計畫に比し上半期に於ては約三三%、下半期に於ては約三五%、即ち年間約二五%の減少を見るに至つたのであります。

政府は斯る事態に對處して急速に船腹の増強を期せんが爲

(一) 標準船型に依る大量建造方式の採用と

(二) 日滿支及南方諸地域全般に亘る木造船の大量建造

(三) 沈船引揚げの強化促進

等の方策を採用致しまして、昭和十七年度は鋼船約〇〇萬總噸を建造致し、計畫に對し約一〇六%と相成るのでありまして、更に本年度國內に於ては鋼船約〇〇〇萬總噸、木造船約〇〇〇萬總噸の建造計畫を樹立し之に要する人員、資材、資金等は最優先的に之が供給を圖り萬難を排して之が完遂を期する事と致したのであります。

更に他方

(一) 港灣荷役力の増強

(二) 徴用船の活用

③ 沿岸機帆船の計畫輸送

等に依る現有船腹の最高度の活用を圖るに共に

(一) 海上輸送を極力陸上輸送に振替へること

(二) 原材料の輸送を節約する見地から立地條件を考へ且つ生産方式

に創意、工夫をこらすこと

等の方途に依りまして一方に於て船舶の増加を圖りますと共に他方に於て極力船腹の節約能率化を策してゐる次第であります。而して之等諸方策の中計畫造船に就ては昨今概ね軌道に乗り次第に成績を擧げつつあり、特に本年度下半期以降に於ては十分其の成果を期待し得るの趨勢を示して居るのであります。然し乍ら之とても戦局の將來を考ふる時は多々益々辨ずべきものでありますので地方綜合行

政を擔當せらるる各位には船舶の建造、船腹の節約並びに港灣運営
力の増強に關して各般の御配意御努力あらんことを特に切望致す次
第であります。

第三 生産力に就て

第一次生産力補充計畫の實施以來重點産業部門に付て計畫生産の確保に力めて参つたのでありますが、特に大東亞戰開始以來其の重點主義を更に強化徹底して鐵鋼、石炭、輕金屬、船舶、航空機を中心として之が急速なる増産に全力を集中し、資材、勞力、資金、動力、輸送等各般に亘り積極的手段を講じて参つて居るのであります。

今其の中の普通鋼鋼材及石炭に例をとつて昭和十七年度生産実績の概要を申し上げますと、普通鋼鋼材は約〇〇〇萬噸で當初計畫量の約八四%、石炭は其の生産は〇〇〇萬噸で當初計畫量の約九三%であります。輸入等を含めた全體の供給は約〇〇〇萬噸で當初計畫量に

比し相當低減したのであります。而して之が原因は主として海上輸送力の減少に因るものであります。之等基礎物資の供給力減就中石炭の供給減の結果は直ちに之を原料とする諸産業に影響し全般的に生産計畫を改訂するの已むなきに至つたのであります。幸にして國民の異常なる努力によりまして甚しき混亂を生ずる事なく經過し得たるのみならず、昭和十八年度に於ける重點生産を更に増強し得る事と相成つて居るのであります。生産基底の變化は、戦争に於ては不可避的でありまして、此の變化に對處し之を克服突破する事が戦争の常態であるのであります。之が爲には此の變化を速に豫察して之から生ずる計畫上の變動を最少限度に止むるのみならず更に此の變化を活用して新なる工夫を凝

して將來に於ける生産擴大の素地を確立するの要があるのであります。之が爲特に必要なる事は相互の連絡を密にして常時生産實態を明確ならしむる事であります。此の點に關し特に配慮を傾はし度いのであります。

昭和十八年度計畫の見透しに付き、基礎物資の一である普通鋼鐵材の供給力に付いて之を觀まするに、年間約〇〇〇萬屯を目途として計畫して居りますが之が確保の爲には諸般の關係上其の生産増強に關し劃期的施策と異常なる努力とを必要とするのであります。政府は極力船腹の使用を節約しつつ生産を増強すべき方途の下に生産能率の向上を圖りますること共に新生産分野の開拓に依つて目的を達成せ

んとするものであります。

即ち

(一) 技術の向上及勞務の刷新等による能率向上

(二) 鮮滿支を通ずる小型熔鑛爐の急設、

(三) 國內資源たる砂鐵精鍊の企業化、

(四) 滿洲國側の對日供給の増大、

(五) 内地熔鑛爐一部の大陸への移轉、

(六) 國內に於ける屑鐵の非常回收の強化、

等の徹底を期してゐる次第であります。就中屑鐵の回收については、現在實施中の特別回收を一層強化しますと共に回收機構、法規の整

備運用、對象物件等の工夫に付特殊の措置を講じつつあるのであります。

又石炭に付ては、本年度に於ける本州、四國地區に於ける配炭の見込は昭和十七年度下半期と同様本州、四國に對する集中配船、機帆船、鐵道等の全面的利用に依り前年度実績に比し約九〇%となる見込でありまして、之が配炭は鐵鋼、輕金屬、航空機、造船、鐵道、瓦斯、電力等の諸産業に優先配當せらるる豫定であります。尙最近の輸送力の状態を考慮して常盤炭、九州炭等需要地に近い石炭の増産に付ては勞務の充足、技術の交流、設備資材の集中等を策して之が確保に力めて居る次第であります。

更に一言篤と申上げ度いことは昭和十七年度の下半期特に其の第四

下半期に於ける鐵、石炭、輕金屬、非鐵金屬、造船等は生産條件の悪化の累積にも拘らず異常なる好成績を示して居ることでありませう。之は色々の原因がありまするが特に昨年度は侍從の御差遣を拜し又産業界の人々に對し拜謁を賜はる寺産業振興に關する有り難き思召を拜し官民恐懼感激して其の事に富りました結果であると思存するのであります。政府に於ては此の大御心に沿ひ奉り昭和十八年度に於きましても更に現在の好調を特續發展せしめんといたして居るのであります。之が爲從來の性格を一層強化致しまして特定重要物資の生産を中心として國家の總力の徹底的集中を期して居る次第であります。即ち政府は内閣總理大臣の御訓示にもある如く行政上萬般の措置を講じつつあるのみならず、物價政策に關しましても生産増強

を中心として新に特別なる方策を實施することとし、更に進んで物資資材の重點的使用により緊急物資の大量生産を圖らんが爲戦時規格の設定普及、生産技術、生産工程等生産方法の徹底的能率化等を行ひ以て生産力の飛躍的増大を企圖し物動供給力の確保は勿論進んで之が突破を爲さんとすることでありませう。

生産に關する重點主義の徹底するに伴ひまして今後經濟の全般に亘り色々の變化が豫想せらるるのであります。此の變化を圓滑に流して社會の結帶を固めつつ所期の目的を達成することは中央地方を通ずる現下行政上の一大要請と存するのであります。重點産業と申しましてもそれは戦力増強上の焦點でありまして、決してそれのみが突出して進行するのではなく、各産業の調和ある發展の上に始め

て庶幾せらるるのでありまして。結局國民全體の力の上に立つて目的が達成せられるのであります。此の點特に各位の御留意を御願致す次第であります。

第三 勞務に就て

國民動員計畫の實施に付きましては各位の並々ならぬ御配慮に依りまして勞務給源の窮屈なるに比し大體順調な歩みを進め、就中重要軍需産業及輸送方面の要員の充足に關しましては概ね良好なる成績を收めつつあるのであります。

本年度の國民動員計畫の見透しは一言にして之を申せば需要は極めて多く而も供給は之に伴はぬといふ實情であります。即ち各方面より要求された需要員數は之を極度に査定致しましても尙合計〇〇萬人を下らない實情であります。之に對し供給方面は新規國民學校修了者、新規中等學校卒業生、中小商工業従事者よりの職業轉換者、移入半島人勞務者等の給源に付いて前年通りの方法を以て供給總數を

概算致しますと前述の査定要求数に對し尙〇〇〇〇人の不足を生ずるのであります。

従つて本年度に於て必要な供給力〇〇〇萬人を確保する爲には前

年度に比して特別の措置を考慮せなければならぬので、

(一) 企業整備に依る餘剩勞務者の緊要産業要員への轉換

(二) 女子の動員強化及特定業務に對する男子就業の禁止制限

(三) 各種學校の整理刷新に依る青少年の給源確保

等に付き夫々具體策の樹立中であります。

尙斯様な諸施策を講じましても今日の勞務需給の實情に於ては之が供給の迅速的確を期することは容易でありませぬので之がため勞務調整制度、國民徵用制度等に必要な改善を加へまして給源の確保を

致す事はもとよりであります。他方勞務管理を徹底し能率の向上を期しまして、數の不足を補ふ事が極めて重要と存するのであります。

第四 生活必需物資に就て

曩に昭和十七年度に於て主要食糧品のほか家庭燃料品及國民衣料品等の主要なるものに付初めて國家計畫を設定したのでありますが、本年度に於ては昨年度計畫の樹立並に實施の経緯に鑑みまして其の品目を擴大致しませんと共に

(一) 主要食料品、主要家庭燃料品及國民衣料品の如く相互代替可能なるものに付ては力めて綜合的需給計畫を樹立すること

(二) 剛健簡素なる戰時國民生活の確立を圖るを旨とする爲一般家庭用配當を重視し業務用に付ては壓縮すること

(三) 戰時下生産増強の重要性に鑑み可及的勞務者に對する合理的配當を考慮すること

(四) 國民厚生の見地より乳幼児、妊産婦、病人等の生活必需品を確保すること

等の方針の下に夫々需給計畫を設定中であります。

政府に於きましては國民生活の所要量を確保する爲軍需生産品と相並んで戦時生活必需物資の確保に努力してゐるのであります。國民生活に於ても益々之が簡素清新化を圖り眞の戦時生活に徹することが緊要であると確信する次第であります。此の點に關する地方長官各位の格段の御指導を御願致します。

以上物動計畫を中心としまして本年度國家總動員諸計畫について其の概要を申述べた次第であります。が計畫は飽く迄も計畫でありまして而かも其の數量は國家活動の最低基準目標であります。夫れ故國民の御奉公、努力は決して之に拘束せられてはなりません。國民の努力は計畫數量の確保は勿論進んで之を突破致さねばならぬのであります。本年度の事情を想察致します時計畫の遂行に雖も多大の困難が伴ふことが豫見せらるるのであります。然し乍ら事は國家の興廢に關する大事であります。如何に物資に不足し困難に遭遇しますることも斷じて遂行致さねばならぬのであります。之を可能ならしむるものは一に異常なる決心と熱意と而して之から生ずる創意と工夫とであります。過去一年の

戦局を省みまして而かも昭和十八年度の深刻なる物資事情に思を致し
まする時大和民族の眞の姿が顯現せられねばならぬ事を痛感致す次第
であります。

地方行政の第一線に立たれて直接國民の指導に當られて居らるる長官
各位に於かれては更に一段の御努力を切望して已まぬ次第であります。

極秘

比軍政治第一五七號

比島治安概況(三月)配布、件

昭和十八年三月十七日 比島軍政監部總務部長岸都區直賢



殿

首題、件別冊、通り配布ス

配布先

- 總務部、内務部、財務部、産業部、交通部、各課
- 會計監督部、調査部、電政局、軍監各支部、警言訓
- 副官部、參謀部情報班、報導部防諜班
- 憲兵隊、防司

收奉

了

自昭和十八年二月一日
至昭和十八年二月六日

比島治安概況(第二號)

比島軍政監部治安部

目次

一 西女 旨

二 一般狀況

(一) 北部呂宋地方

人 匪 情

(二) 中部呂宋地方

人 匪 情

(三) 南部呂宋地方

人 匪 情

(四) 中部地方

人 匪 情

(五) 南部地方

人 匪 情

三 治安工作ノ概要

四 所見

本月報ハ比島側情報等ヲモ參酌シ且多分ニ軍政的考察ヲ加味シ収録シテ
ルモノナルモ其匪情等ハ配布時機ノ關係上能ク新情報ニ比シ新味ヲ減加
シアアルモノナシトセザルヲ諒知セラレタシ

一、要旨

三月末ヲ目途トスル軍ノ徹底的剿匪行動ハ
各地方兵匪ニ大ナル打撃ヲ與ヘ反面之ト呼
應スル軍政諸機關並憲兵等ノ宣傳宣撫並殺
降服順工作等奏功シ一般ニ匪勢益々衰退シ
残存兵匪ノ組織ハ崩潰ノ一路ヲ辿リ軍政ハ
逐日滲透シアリ然レトモ其潛行的蠢動ハ今
尚局地的ニ執拗ニ反覆セラレ各地方兵匪ハ
今次コロモン及「ユーギニヤ」方面ニ於ケル
一部軍ノ撤退轉進ヲ巧妙ニ逆宣傳シ米軍再

來ノ期到來セリトシテ民心擾乱ニ導キ其ノ
行動又各地方ニ於テ漸次謀略的傾向ニ移行
シ且其一部ハ依然頑強ニ抵抗シアリ
就中中部呂宋パンガ州蒸地帯及又エバ
エシハ州ニ於ケル共產匪並ラクナ州ラクナ湖
東岸附近ニ蠢動シアル「ホセ」ベラスケ一味ノ軍
民自動貨車乗用車倉庫小部隊ノ襲撃ヲ親日比
人ノ拉致等ノ事件散發シツバアリ

南部呂宋地方ハ「アルハイ州南」カマリネス州
等ニ於テ潛伏匪ニ依ル鐵道作業隊或ハ列車
乗合自動車等ノ襲撃事ヲ見タル外治安ハ
概ネ良好ニ維持セラレアルモ「マスバテ島東
南海岸」ハ「ビサヤ」地方潛入匪若干ノ蠢動ヲ
見ツ、アリテ之カ討伐續行中ナリ
尚「ビサヤ」地方兵匪ハ相次ク討伐ニ加フルニ
糧食兵器彈藥等缺乏シ匪勢衰退ニ向ヒツ、
アレ共未ダ抗日意識熾烈ニシテ頑強ニ抵抗
ヲ繼續シアリ、就中「セブレ」ボ「ホル」島ニ於テハ

クワシングフエントン両中佐依然米壕方面ト
連絡ヲ策シマツカーサノ指揮激勵ヲ受ケアル
モノ、如ク又セブニ州知事ノ投匪後ニ於ケル
其逆宣傳ハ相當不良民衆ノ機微ナル心理ニ
投シタルモノ、如ク今尚親日比人等ニ對ス
ルテロ行為等ノ發生絶無ナラス
バナイ島ハ逐次治安ノ回復ヲ見ツ、アレ共
同島敗走匪ハネグロス島ニ上陸同島ニ於ケ
ル兵力増強ヲ画策警察隊員ニ對スル逆宣傳
ヲ實施シ良民部落ニ劣没日用品ノ強奪等ヲ

為シツ、アリテ偷安ヲ許サス

「シ」ンタナオ島南部兵匪ハ殆ト潰滅シ治安漸
次確立シ住民ハ着々生業ニ從事シアルモ北
部「シ」ンタナオタル西「シ」サミス州下ニ蠢動シ
アルヲイルテク少佐采^{（依然）}執拗ニ及撃手ヲ繼續北
部「シ」ンタナオ一帯ニ密絡シテ匪勢ノ挽回増強
ニ努メアリ、尚ヲナオ州ニ於ケル不逞モ口
ハ軍政監部支部ヲ「シ」ランサラン^{（張所）}ノ懐柔工
作ニ依リ概ネ平靜ニ取シツ、アリ
スル「シ」諸島ハバ「シ」ラン島方面ノ敗走匪侵入

＝加フルニ最近同諸島内「モロ」族ノ内証ヲ生
スル等治安悪化ノ兆アリ

比島独立ニ関スル東條首相ノ聲明ハ官民共
ニ絶大ナル関心ヲ有シ尔來各地ニ於テ感謝
行事等ノ實施ヲ見又之ニ伴フ諸工作ニ依リ
民心ハ頓ニ明朗化シ一部ニ残存シアリタル
米國依存ノ思想乃至風潮ハ逐次是正拂拭セ
ラレツ、アリテ行政府側首脳部ニ於テモ治
安回復ニ積極的協力ヲ借シマサル態度極メ
テ熱誠眞摯ナルモノアルヲ看守セラレ、又ガ

セラレアリテ此ノ動向ノ今後治安肅正ニ及
ホスヘキ成果蓋シ注目ニ價ス

二、一般狀況

一、北部各來地方
ノ匪情

兵匪ハ各所ニ急迫セラレ兵器彈藥ノ缺
乏及經濟的一層深刻化シ吸々トシテ逃
避ニ奔走シ匪勢力益々衰退シ一時北
部
コソ州カガマン州マウンテン州北部ニ

蟠踞シ偽軍政或ハ偽州ヲ設置シ執拗
ニ蠢動ヲ繼續シアリタルアブラン匪及
アドロ匪等ハ皇軍ノ討伐進展ニ依リマ
ウンテン洲及北イロコス州山脈地帯ニ
敗走シ且其部下ノ一部或ハ其一味相次
テ捕獲セラレアルモ未タ米軍再來ノ旨
信ヨリ脱却シ得ス敗匪ノ收容土民ノ懷
柔等ニ狂奔シアリ
尚マソノカマン附近蠢動兵匪ハ謀略的行
爲ニ劣テントスル傾向ニアリ本月上

旬以來ニ回ニ亘リ銅鑛搬出自動貨車運
行妨害ヲ爲シタル事象ハ注目ヲ要スヘ
キ発生事件ナリ(匪情別紙ニ発生事件別紙ニ添
各地ノ状況概ネ左ノ如シ)

④東地区

下カガヤン州北部ニ頑強ニ抗日宣傳
 ヲ以テ私軍政ニ抵抗ヲ繼續シアリタル
 下アドロシ匪ハ全州トマウンデシ州
 北境附近ニ敗走四散シタルモノ、如ク
 ナルモ全匪ノ蠶動地区ニ發行シアリク
 ルトワルテノシ紙幣ハ住民間ニ相當多
 額潜在流通シアルモノ、如シ
 下イサベラ州ニ蠶動シアル兵匪ハ極
 少数ナルモ兵舎ヲ構築住民ヲ脅迫シ糧
 食ハ強奪等ヲ試ミ、又エバビスカヤシ
 州ニ於テハ小教ノ匪團糧食ハ強奪良民
 ノ強制獲得或ハ親日比人ノ襲撃等依然
 蠶動ヲ繼續シアリ

④

中地区

部隊ノ果敢ナル急追ニ席捲セラレ彷徨
シアルコトハルドウエンル中尉匪ハ尚執
拗ニ反撃ヲ試ミアルカ今匪ハ本月十二
日コトイトゴンル金山東北部僻地部落ニ
部下多数ヲ集合シ抗日反撃義勇軍募集
ニ関スル會合ヲ催シ左記ノ如キ決議ヲ
為シタル模様ナリ

(1) 匪勢ノ增强ヲ計ルタメ義勇軍ヲ募集
ス

(2) 募集方法ハ強制加入ヲ為シ拒否スル
者ハ射殺ス

(3) 義勇軍加入者ニシテ離脱者ハ家族全
員殺害ス

④

「ボゴツト」北方七村「ビライ」附近

山中ニハ「フイツシ」中尉潜伏シ尚米

人ノ指揮スル若干ノ兵匪蠢動シアル模

様ナリ

尚「ボゴツト」方面ニ蠢動シアリタル

匪首「モ」セス「中佐」ハ「ア」グワヤシ

「ボゴツト」北方十一村ニ於テ病死セ

ル風評アルモ詳カナラス

西地区

北「ア」ブ「ラン」ニ「部」隊ノ討伐ニ敗走シ

「マ」ウ「ン」テ「州」西北部山岳地隊

ニ移動セルモノ如ク有力部下ノ捕獲

等ニ由リ其ノ活動逐次萎微シ治安ハ好

轉ノ兆アリ

マダソバール匪ハ北コイロコス州

中部ソルソナール附近ニアルモ匪勢

見ルヘキモノナシ

バルネツト大尉匪及シヒン

大尉一味ハマウンテン州方面ニ迫

入セル情報アリタルモ依然ラウニオ

ン州内ニ潜伏自己ノ保身ニ汲々タル

モノ、如シ(シピン大尉三月七日捕獲)

又軍政ト民情

討伐ノ進展ト交通機關ノ一部確保ニ依

リ治安ハ着々確立セラレ軍政ノ滲透ハ

バギオール周辺ヲ基準トシラウニオ

ン州マウンテン州其他諸州ニ漸

次擴大シ各州行政機關、整備ト共ニ時
局ノ進展ヲ認識シ最近特ニ比島側官吏
ノ積極的軍政協力ノ氣運醸成セラレア
ルヲ察知セラレ特ニ「カリバピ」副總
裁「アキノ」一行ノ該地方遊説ハ東條
首相ノ比島獨立ニ關スル再聲明ニ膏接
シテ民心ノ作興覺醒ヲ著シク促進セル
モノト認ム
又交通機關ト燃料ノ不足ハ物資ノ交流
ヲ不圓滑ナラシメ民衆ハ生活ノ安定ヲ
焦慮シ居ルハ否ニ難キモ保甲制度ノ活
用ト相俟ツテ生必物資配給機構ノ運
營等ニ關シ逐次協力的態度ヲ示シヤリ
南北「イロコス」州及「アブラ」州ニ

於テハ最近米穀不足並家内手工業ノ衰
微ヲ来シ剩ハ輸送機關ナキ為家畜類及
農産物ノ不正仲買等ヲ為スモノ現出シ
住民ノ生活ニ困惑ヲ與フルモアリ
家内工業衰微ヲ恢復スル為ニ織維手工
業ノ指導等ニ就キ特ニ對策ヲ講スヘキ
要アルヲ痛感ス

(二) 中部呂宋地方

人匪情

兵匪ハ各地ニ破碎セラレ或ハ投降
帰順シアルニ拘ラス又エバエシハ州
バンバングラ州南部湿地帯コブラ
オン州及トラグナ州ノ諸地域ニ
於テハ執拗ニ抗日及撃ヲ及履シ
我小部隊ノ襲撃ヲ親日比人ノ拉致
軍民自勤車或ハ町村後場巡察

署米穀倉庫 軍管理農場 製材
所ノ襲撃等ヲ 連續的ニ敢行シ
依然軍政ノ渗透ヲ阻害シアリ特
ニ「ラグナ」相東岸ニ於ケル治安就
中民心ノ奇反（急激ニ悪化シ）今後其動向特ニ
注意ヲ要スルト共ニ速ニ新対策ヲ
講スルニト緊要ナリ

本期間發生事件別紙ヲ七ノ如シ
尚二三特殊事例ヲ挙ケレハ次ノ如シ

①「バンパング」州南部総指揮官「ホ
セバナール」ハ「フクバラハップ」機
関紙ヲ以テ日本ヲ搾取國ナリト
稱シ、民衆団体ヲ結成シ、軍政
ヲ誹謗シ、殊ニ收穫期ニ於ケル米
穀供出拒否ヲ宣伝シアリ
尚、同州内ニ蠢動シアル共産匪ハ
左ノ如キ抗日宣伝文ヲ配布シ、民
心擾乱ヲ為シアリ

日本軍ハ「ニューギニヤ」又「ガタ
カナル」島ヲ撤退シ米軍ハ既ニ之
ヲ占領セリ米軍比島奪還ノ期
愈々切迫セルヲ以テ比島人ハ悉
ク抗日國民軍ニ参加シ日本軍
ニ抵抗セヨ

④「又エバエ」州内ニ蠢動シアル共
産匪ハ其活動ヲ左ノ三莫ニ指
向シアルモノ、如シ

(1) 親曰此人ノ拉致暴行脅迫
襲撃等ニ依ル無警察化

(2) 交通ノ妨害特ニ橋梁ノ破壊謀

略

(3) 喪失武器ノ回收

尚敗残兵ハ三月十五日米軍表

援説ヲ宣伝シ陣営強化ヲ計

リテアリ

④又「エバエ」ハ州ニ於ケル共産匪
対敗残兵匪ノ相及目ハ最近頗ニ
熾烈化シアルモノ、如ク二月十一
日十七時「ギンバル」町「サンタク
ルス」部落ニ於テ交戦シ共
産匪戦死五〇員傷二五敗残
兵員傷三ヲ出セル模様ナリ爾
後双方共相手側ノ行動ヲ内査
シ撃滅セント策シアルモノ、如ク

支部ニ於テハ之ガ監視ト利用ニ関
シ善処ニツキアリ

匪情別紙第二ノ如シ

2. 軍政ト民情

東條首相ノ比島独立ニ関スル再
聲明ハ特日ノ経過ニ從ヒ克ク其
ノ真意ヲ認識シ之カ念願達成
ニ全カク傾注スヘク各階級ヲ問
ハス一様ニ熱狂的歡迎ト共ニ軍政

協力ノ積極的態度假ヲ示シアリ

軍管理米穀会社ニ於テハ着々收
買ヲ増強住民ノ生活安定ヲ期
シアル共依勢輸送自動車^貨燃料
及麻袋等ノ不足 匪情ノ影響等ハ
各收買所ノ收買工作ニ尚要々支
障ヲ来サレメツ、アリ

カンパング州ニ於ケル養蚕真施策ハ
官民共ニ大ニ期待ヲ以テ迎ハラレ
アリ

生必物資配給組合ノ配給物資ノ
不足ニ依リ住民ノ需要ヲ充足シ得
ス且地方民ノ一般的無智ト利己
主義自由主義ニ基ク買播メ之ニ
策應スル不正仲買人ノ跳梁其跡
ヲ絶クス價格ハ依然昂騰シアリテ
住民ハ生活ノ苦慮ヲ訴ヘツハ
アリ

三 南部呂宋地方

人匪情

残存兵匪ノ投降帰順者 漸次増
加シ又兵器ノ回收等煩調ニ実施
セラレ治安ハ概ネ平穩ヲ維持セラ
レアルモ「マスバテ」島東南部海
岸地方ニ潛入セル「ビサヤ」地方
逃走匪徒南「カマリネス」州「ラ
グノイ」半島ニ蠢動シアル「ミランダ
パトア」一味等尚執物ニ地方小匪

田ト連繫ヲ保チツ、軍民離間ノ
逆宣位或ハ親曰此人拉致 米穀倉
庫ノ襲撃^ヲ就中本期間「アルバイ」
州「ギンバタン」ヲ中心トシテ 蠢
動セル「サバットパン」リオ「一味」又南
「ガマリネス」州「リブマナン」ヲ中
心トスル「オリオマ」兄弟一連ハ 警
備ノ間隙ニ乗ヒ 鉄道作業隊或
ハ列車 乗合自動車 親曰此人等

ノ拉致襲撃等ヲ連続的ニ敢行シ
タル事件アリテ未タ倫と云フ許サ
サルモノアリ

尚一月下旬東條首相ハ比島独立ニ
対スル再聲明ニ依リ民心頓ニ安定
ノ氣運ニ向ヒツ、アリタルモ今次
ソロモン方面戦闘ニ於ケル一部軍
ノ撤退転進ニ当リ匪徒ハ僻地住
民ニ対シ之カ逆立位ニ依リ民心ノ
動搖ヲ策シ部下獲得ヲ企圖シテ

ルモノ、如シ

匪情圖別紙才三 祭生事件表別
紙才八ノ如シ

又、軍政ト民情

保甲ノ編成ハ南「カマリネス」及「マ
スバテ」兩州ヲ除キ概テ良好ナル
状態ニ結成ヲ見タルモ未タ其ノ活動
所期ノ域ニ達セス過般現地警備
隊指導ノ下ニ組織セル自警團ハ部

落警言戒ニ任レ侵入匪ノ逮捕警戒
等ニ相当大ナル成果ヲ挙ケツハアリ
稲作收穫勞働者不足ニ対処シ南
カマリネス州ニ於テハ他州ヨリ勞
働者ヲ入手シ頻調ニ收穫ヲ実施
セルカ南部呂宋地方一般ニ於テハ軍
管理米穀会社出張所ノ設置ニ依
リ着々強化シアリタル收買配給
ハ最近交通機關ノ障言等ニヨリ
テ因滞ヲ欠クニ至リ飯米欠乏シ

住民ノ生活ニ深刻ナル脅威ト悪影
響ヲ讓成セリ

陸運管理局ニ於テハ燃料不足ニ依
リ管内一般ニ運行シテアリタル乗合

自動車ノ運行ヲ停止セルカ米穀

不足ト相俟ツテ民心動搖シアリ

之カ爲物資ノ交流ヲ更ニ不円滑

ナラシメ生必物資ノ拂底下價格

ノ暴騰ヲ招来シ一部民心ハ不安ノ

極ニ達シ、日本側ニ物資ノ採取ヲ
為スカノ如キ或ハ米國統治當時ノ自
由主義的改策ヲ詛敬スルカ如キ
言動一時巷間ニ流布セラレタリ

(四) ビサヤ地方

ノ匪情

討伐ノ進勢ニ依リ「パナイ」島西北
部平地一帯ハ漸ク治安回復ヲ見
ルニ至リタルモ同島ニ於テ敗走セ

ル敵匪若干ハ「ネグロス」島一部
兵匪ニ合流セルモノ、如ク行動稍々
浩深ナルモノアリ又「セブール」市圍
内ノ兵匪ハ柵内ニ潛入シ親曰比人ニ
対スル「テロ」行為尙ヲ敢行或ハ又
及日宣伝文ヲ撒布シ治安攪乱行
為ヲ為シツ、アリ
高「セブール」ボホール「島方面」
於テハ依然無電ニ依リ米濠ト

緊密ニ連絡ヲ保チ、各匪団トノ連
繫ヲ組織化シ、頑強ナル抵抗ヲ繼
續シアリ（匪情別紙第四）

各島ノ概況概ネ左ノ如シ

⑭ パナイ島

敵匪ノ行動著シク消極的トナリ
島内概ネ平穩ニシテ、治女ハ逐次
好転シツ、アレ共未タ匪首「ヤラ
ルタ」中佐ハ之ヲ捕促シ得ス

④ネグロス島

「河ナイ」島兵匪約五〇〇ハ本月十日頃本島南部方面ニ上陸同地方ニ於ケル兵匪ハ兵力ノ増強ヲ圖ルト共ニ活潑ナル活動ヲ企圖シアルヲモノ、如ク又之等ノ兵匪ハ市場ニ潜入日用品ノ掠奪或ハ交通妨害等ヲ為シ町村中心地ノ襲撃等ヲ企圖シアルモノ、如シ其ノ他兵匪ノ「マ」宣伝モ活潑

巧妙ニシテ特ニ警察隊員ヲ目
標トセル匪団加入勧告宣伝文ニ
支那語ヲ使用シアルハ注意ヲ要
スヘキ事象ナリ

⑭ セブー島

敵兵匪ハ最近東條首相ノ比島独
立再聲明ニ反抗スヘク 逆宣伝文
ヲ撒布 或ハ親日比人ノ殺害分
哨ノ襲撃等ヲ為シ 民心攪亂

ヲ画策シアリ

④ボホール島

警備隊駐屯地概不平稳ナル
モ其他ノ地域ニ於テ依然島内
兵運ハ運首「シイヤム」(米人)
ノ指揮ニ依リ蠢動ヲ繼續シアリ

⑤レイテ島及サマール島

「レイテ」島ニ於テハ本月十一日兵運

ノ乗合自動車襲撃事件アリタ
ルモ両島共兵匪ノ帰煩気運濃
化ノ状況ニアリテ治安ハ好転ノ一
途ヲ辿リツツアリ

又、軍政ト民情

トセブ一市ニ於テハ八日東條首相
ノ比島独立再聲明ニ應ヘ行ハレ
タル感謝行事並紀元ノ佳節ヲ
トシ支那主權ノ下ニ実施セラレ

ル記念行事等ニ依リ軍政ノ
渗透ヲ一層助長シタルモノ、如ク一
般民衆ニ厭戦気分ト曰本依存気
運ノ讓成セラレタルヲ窺知セラレ之
カ治安好転ニ資ラセル影響大ナ
ルモノアリト思料セラル
シヤ地区各島共物資ノ欠乏甚
シク物價昂騰ノ一途ニ在リ住民
ハ経済的ニ窮迫シ産業施策ニ

在リテモ警備隊駐屯地以外に兵
匪ノ跡果頻繁ニレテ所期ノ域ニ
達セ入之カ為 失業者續出シ一般
ニ民心尚安定ノ曙光ヲ見ルニ至ラ
ス

(五)

ミンダナオ地方
の匪情

警備部隊ノ果敢ナル剿匪作戰並支部、
 比島側各地行政機関ノ宣傳宣撫ニ依ル
 匪民分離工作ノ促進ニ匪勢ハ衰滅ノ一
 途ヲ辿リ且其ノ活動漸次消極的トナリ
 討伐ニ敗走セル兵匪ハ戦闘力ヲ喪失セ
 ル感アリテ南部「ミンダナオ」一帯ノ
 治安ハ概ネ確保セラレアリ
 「マライ」バライ方面ニ活潑ナル蠢動
 ヲ^繼續シアリタル敵匪首「マゲ」少佐
 ハ警備隊ノ相次グ急襲ニ戦死シ爾後同
 方面敵匪ハ著シク戦意ヲ喪失シ残匪ハ
 「カラスニカイ」西方山中ニ遁入シ夕

ルモノ、如ク治安ハ着々回復シアリ
 トラオ、州内ニ抵抗ヲ續ケアリシ不
 運モロシハ軍政監部支部ヲダシサ
 ン出張所ノ懐柔工作積極的ニ繼續セ
 ラレタル為逐次功ヲ奏シ州内ハ概ネ平
 穩ニ帰セリ、然レ共未討伐地区西
 サミス州ハ依然兵匪ノ支配下ニ在リ
 テ匪首米人ヲフイルテツクハ益々其
 ノ組織ヲ強化シヤルモノ、如ク宣傳及
 兵力獲得工作等相當活潑ニシテラナ
 オ州東ニサミス州及
 ンガ州西北部兵匪ト密接ナル連繫ヲ
 為シ北ミシダナオ兵匪蠢動ヲ策源
 地ヲ為シマル模様ナリ、尚
 フイルテ

焔動匪勢增強ヲ画策中ナルモノ如シ
 ヲスル州ヲシアン島ニハバシ
 ラン島方面ヨリノ潜入敗残兵約五〇
 ヤリ之等ハ同島内不逞ヲモロト合流
 シ最近治安攪乱等ノ舉ニ出テアルモ
 ノ如クホロシ島ヲモロシ族ニ於テモ
 前記ノ如キ影響ニ依リ治安悪化ノ傾向
 アリ尚最近ニミナオシ島内兵匪
 ハ七要幹線道路橋梁破壊等ノ謀略的行
 為ニ出テアル模様アリテ注意ヲ要ス
 之軍政ト民情
 軍政ノ滲透ハ各地住民間ニ擴大シ
 テ漸次時局ノ進展ヲ認識シ避難地ヨリ

ノ 歸村者増加シ又積極的協力ヲ為サン
トスル氣運一般ニ醸成セラレ特ニ官公
吏間ニ其ノ傾向顯著ナルモノ窺知セラ
レ一月下旬東條首相ノ比島獨立ニ関ス
ル再聲明及之ニ伴フ軍政監ノ聲明ハ官
民ニ多大ノ感激ヲ與ヘ日本ヘ信倚心
ヲ昂揚セシメアリ尚過般發足ヲ見タ
ル比島再建奉仕團ノ精神運動ハ治安確
立地ニ逐次普及シテ一般民衆ヲ啓蒙シ
極メテ良好ナル風尚ヲ馴致シツ、アリ
南部ヲミシテオレ地方住民ハ治安確
立ト共ニ各地ニ共生業ニ復歸シマニ
ラシ麻、コブラ及米穀等ノ生産ニ
從事シ又比較的失業問題ノ顧慮ナク民

心ハ概木安定シアリ
尚「ガ」ン「ア」ン「カ」ル「町」及「カ」ガ「ヤ」ン「コ」フ
町地方ニ對シテハ重要產物タル「コ」フ
ラ「シ」テ「之」ヲ收
買セシメタルカ住民ハ最少限度生活ノ
安定ヲ得テニ通信機關ノ開設ニ依リ民
心大ニ安定シ治安上大ナル効果ヲ收

治安工作ノ概要

本期間ニ入り各地方共行政機關首腦
部及地方有力者ヲ指導積極的宣傳宣撫
工作ヲ実施シ兵匪ノ帰順工作或ハ兵匪
ノ逆宣傳ニ乘ゼラレトスル民心ノ是
正把握ニ其「他」カ「バ」ヒ「ル」精神運動

地方遊説其他、具体策展開ニヨル
東條首相、此島獨立再聲明ノ敷衍其他
英米心算及自由主義的思想ノ排撃ヲ計
ルハキ各種工作ノ繼續實施等ニ於テ地
方僻地ニ於ケル蒙昧ナル住民及一般
民心與ハル影響甚大ニシテ治安維
持ニ及ホセル効果甚カラサルモノアル
ヲ察知セラレ又此ノ間各地方ニ於ケル
諸工作ニヨル順兵匪ハ約三千ヲ算シ
夕リ
トビヤヤレ地ニセブール市ニ於テハ
本月中旬歸來難民保護所ヲ設置シ避難
民家及歸來者ノ保護ヲ為スヘク大々的
宣傳ヲ為シアルカ通行證撤廢ト相俟テ

冊内ニ帰来スル者漸増ノ傾向ニアリテ
此種施策ノ治安上ニ齎ス成果大ニ期ス
ヘキモノアリト思料ス
又フカバオ州カバサン郡ハ若干
匪團跳梁シ下リテ未タ民心安定セス軍
政施行上阻隔ヲ来シアルニ鑑ミ之カ可
及的速ナル治安ノ確立ヲ期スヘク一月
二十日ヨリ約一ヶ月ノ豫定ヲ以テ
バオ州警察隊員四十六名ヲ基幹トシ
州政府宣傳班員同行全地ニ派遣シ特別
宣傳宣撫工作ヲ実施シ尚引續キ繼續中
ナルカ敗殘兵匪ノ投降氣運ヲ醸成促進
スル等其ノ効果大ニ見ルヘキモノアリ

四所見

狀況敘上ノ如ク今尚局地の残存兵匪ハ執拗

=抗日反撃ヲ試ミ頑強=抵抗ヲ繼續シアリ

テ部分的ニハ却テ本期間ニ入り相當治安悪

化セル地域アリ、然レトモ其蠢動ノ様相未

期的症狀ニシテ全般ヲ通シ一路好轉ニ向ヒ

ツ、アルハ疑ヲ容レサルトコロナリ、

又治安悪化シ兵匪ノ跳梁激シキ地域ハ更ニ

其原因ヲ究明シテ匪首捕提ヲ主眼トスル討

伐ニ策應シ一層徹底的宣傳施策ヲ強化スル

前シテ一面各地共投降氣運濃化セル兵匪團

相當數ニ上リアリテ之等ハ一樣ニ投降後

於ケル生命ノ保證ヲ危懼シテハ苟モ功名心ニ

對策及投降工作ニ際シテハ苟モ功名心ニ焦

慮スルコトナク關係機關ノ堅忍ナル連繫ニ

依リ一貫セル計画ノ下ニ之ヲ實施スルノ着

意肝要ナリ

警察官ヲ指導諸工作實施ノ場合ニ於テ特ニ

然リトス

尚諸機關ニ依ル請願或ハ文書傳單等ノ宣傳
宣撫ハ比島人夫々ノ民族性ニ鑑ミ又地方ノ
實狀治安地域ノ重要度ニ即應シ及覆連續シ
テ實施スルノ熱意最モ緊要ナルハ從來ノ結
果及匪徒ノ反撃ノ事例ニ徴シ特ニ痛感セラ
ル、トコロナリ

現在實施シアル「ガリパピ副總裁」キレノ地
方遊説ニ際シテモ更ニ尔後ノ工作ヲ考慮シ
又地域ノ重要度ニ應シテ及覆實施スル等ノ

企圖ハ其成果ヲ更ニ効果的ナラシムル著想

ナラシヤト思料ス

元來占領地域ニ於ケル民心ヲ把握ノ方策ハ

一、シテ定ラサルモ統制経済ノ円滑ナル運

營ノ産業充^策周發強北ニ依ル失業者ノ救済

消此ニ待ツ處ニ甚大ナルモノアルハ之ヲ先

自以來ノ治安ノ好轉ノ狀況ニ見ルニ如實ニ

看取セラル、モノアリテ一層關係部課ノ努

力ヲ要スルモノト認ム

(了)

別紙第六

發生事件表

(北部呂宋地方)

日	時	場	所	概	要	摘	要
二月上旬		カガヤン州 アマリ西方		橋梁ニ破壊セラル			
二一四		パキオ紀點六 十七軒製材所		製材所使用比人殺害サル			捜査中
二一五		キオ北カガヤン州 クヤンニタラト クヤンニタラト		村長及全村警察副署長襲撃サレタル モ被害ナシ			討伐
二二〇		ニバセガヤ州 ピンヤン		警察署、町役場兵匪ノ襲撃ヲ受ケ同町書記及 警察官一死致サレタリ			捜査中
二一八		南イロコス州 ナルパガン北方		警察及警察隊討伐ノ歸途兵匪ノ襲撃ヲ受ケ兵 一員傷警察隊員一戦死ス			退
二月中		北イロコス州		親日比人ニ殺害良民ニヲ致ス			捜査中
二月中		イサヘラ州		良民三名兵匪ニ殺致殺害セラル			

<p>八 「ヌエバエシハ」州カビ 「サンタリタ」州カビ</p>	<p>上郡部二業シテリタル概不足共匪ノ爲 焼却セラレ</p>	<p>討伐</p>
<p>九 カバナツアン町 アトス部落</p>	<p>土民一法致セラレ</p>	<p>捜査中</p>
<p>「ブラカン」州アナタン （サンルデホンノ北方三</p>	<p>民間自動貨車一共匪二〇ノ襲撃ヲ受ケ比 人一即死二名負傷</p>	<p>討伐</p>
<p>二 「バンバンガ」州 アラヤツト山 東方一約ノ地結</p>	<p>地形偵察中ノ警備隊青山中尉以下四名約五 〇ノ共匪二襲撃セラレ青山中尉戦死見習士 官負傷セリ</p>	<p>討伐</p>
<p>「バンバンガ」州 「サンピセンテ」部落</p>	<p>共産匪首「サンバン」及「シビロ」以下 約一〇〇ハ上記部落居住「サンピロ」以下 入役宅ヲ襲撃シ銃一及彈藥強奪セリ</p>	<p>掃蕩</p>
<p>「バンバンガ」州 「グアグア」東方四 橋梁上</p>	<p>患者輸送中ノ警備隊自動貨車共匪約二〇ノ 襲撃ヲ受ケ將校一兵二負傷セリ</p>	<p>討伐</p>
<p>「ヌエバエシハ」州 「マビニ」部落</p>	<p>共匪ノ襲撃ヲ受ケ住民二負傷ス</p>	<p>討伐</p>
<p>「ヌエバエシハ」州 「ハエン」町</p>	<p>軍管理米穀會社倉庫襲撃ヲ受ケ警戒中ノ警 察官一三名ハ銃器ヲ強奪一部負傷セラレタ リ</p>	<p>掃</p>
<p>「バンバンガ」州 「エルナント」至「アバリツト」</p>	<p>民間自動貨車襲撃セラレ比人三名死亡同一 名負傷ス</p>	<p>討伐</p>
<p>「バンバンガ」州 「ル」部落</p>	<p>住民一殺害セラレ現金若干強奪セラレ</p>	<p>討伐</p>

「サントトマス」
討伐中

別紙第七

發生事件概況表

(中部呂宋地方)

月日	場所	概	摘要
二	一 「バンパンガ州ミナリン」町 「サンシイドロ」部落 「ヌエパ」州 「ガボン」町「バンタケ」	約五ノ共匪上記部落襲撃、區長ヲ殺致ス 住民一死致セラル	討伐 捜査中
三	「ボンバ」州 「ヌエパエンハ」州 「ボカ」州 「バシタタ」	上記村長「トラムラオ」ウエシスラオハ 「ボトラン」東方十約ノ地點ニ於テ射殺サ 住民一死致セラル	捜査中
六	「ブラガン」州「ムソン」部 「サミゲル」東方七約	「アンヘレウ、ヘルナンデス」以下十五名、 共匪部落住民ヨリ金品強奪ヲ爲ス	討伐
八	「ラクナ」州「カランバ」 町南方 「サントトマス」	銃器ヲ所持セル五名ノ匪團自動貨車ヲ襲撃 同貨車及乗客所持ノ現金三千比其ノ他衣類 時計等強奪セラレタリ	於テ一隊ニ 取調中
八	「ヌエパ」州「カビラ」 町 「サンタリタ」	上記部落ニ襲撃シアリタル糧不足共匪ノ爲 焼却セラル	討伐
九	「カバナツアン」町 「アボ」ス部落	土民一死致セラル	捜査中
	「ブラカン」州「アナタン」 （サンルデホン）北方三	民間自動貨車一輛共匪二〇ノ襲撃ヲ受ケ比 人一即死二名負傷	討伐

一三	「スエバエシハ」州 「ルソツク」部落	馬匹四匹類若干強奪セラル	
一四	「スエバエシハ」州 「アトニオ」町	「ババヤ」橋兵匪ノ爲焼却セラル	復舊
一七	「サンホセ」町 「タブラツク」部落	上記部落住民一總強馬匹一強奪セラル	捜査中
一八	「ラグナ州」湖東岸 「サンホセ」町	巡査部長強奪セラル	捜査中
一九	「ラグナ州」湖東岸 「マキリン」山	軍用自動貨車一襲撃セラレ兵戦死四員傷四	討伐
二〇	「サンホセ」町 「マキリン」山	ラグナ州警察隊員十三名討伐ノ時途襲撃セ	討伐
二一	「サンホセ」町 「マキリン」山	ラグナ州警察隊員一名重傷	討伐
二二	「サンホセ」町 「マキリン」山	上記部落自警員一名重傷	討伐
二三	「サンホセ」町 「マキリン」山	上記製材所匪徒ヲ受ケ一名死亡二名負傷ス	討伐
二四	「サンホセ」町 「マキリン」山	保甲自警員匪徒一名殺害セラル	討伐
二五	「サンホセ」町 「マキリン」山	親日比人二總強殺害セラル	討伐
二六	「サンホセ」町 「マキリン」山	上記部落區長ハ共匪ノ爲強殺害セラル	討伐
二七	「サンホセ」町 「マキリン」山	警備隊密偵一總強殺害セラル	討伐
二八	「サンホセ」町 「マキリン」山	上記部落住民一殺害セラル	討伐
二九	「サンホセ」町 「マキリン」山	民間自動貨車二匪襲ヲ受ケ比人一名死亡三	討伐
三〇	「サンホセ」町 「マキリン」山	各負傷ス	討伐
三一	「サンホセ」町 「マキリン」山	「パンキール」木材工場視察ノ時途ニアリ	討伐
三二	「サンホセ」町 「マキリン」山	タル將校以下四名匪襲ヲ受ケ負傷セリ	討伐

發生事件表

(南部呂家地方)

月日	場所	概	要	適用
九	南カマリネス州 ブラ町	兵隊ヲ襲撃ヲ受ケ自警隊三名 負傷九名致セラレ	計 伐	
一〇	アルバイ州 キノバタン町	監理局乗合自動車兵匪ノ爲停車 セシメラレモ被害ナシ		
一〇	アルバイ州 カマリグ 國道上	情報蒐集ノ警察官一名襲撃セラレ負傷ス	捜 査 中	
一一	南カマリネス州 カマリガ タンバク 部落	比人三名兵匪ノ襲撃ヲ受ケ二名即死一名輕傷ス	討 伐	
		土民二匪襲ヲ受ケ一名重傷		
一三	アルバイ州 オアス町	米穀襲撃セラレ初二四俵白米一俵強奪セラレ		
	南カマリネス州	列車武装匪ノ襲撃ヲ受ケ比人二及軍馬	計 伐	

一三	アルバイ州 オアス町	米穀襲撃セラレ初二四俵白米一俵強奪セラル	
	南カマリネス州 マタコンーバト間	列車武装匪ノ襲撃ヲ受ケ比人二及軍馬 一頭負傷ス	計 伐
	南カマリネス州 バト町アゴラ橋上	乗合自動車襲撃ヲ受ケ一名死亡二名負傷	
一八	南カマリネス州 アリバナーバン	乗合自動車襲撃セラレ一名重傷四名輕傷	
	南カマリネス州 ミナブスアサ ミナブスアサ ナブア町	上記部落區長ヲ殺致セラル 警察官及土民二殺セラル	捜査中 捜査中
一九	チガ町 コンセブション町	比人三名殺致セラル	
二三	南カマリネス州 ミナラバツク町	軍管理米穀會社出張所匪襲ヲ受ケ比人一名殺致 現金一五〇〇比ヲ強奪セラル	計 伐
	ブ	兵匪ノ襲撃ヲ受ケ巡查一其ノ他住民二二名殺致セ ラレ同町長頭部負傷	

友友友友友友
友友友友友友
友友友友友友
友友友友友友
友友友友友友

中

行

友友友友友友

友友友

友友友友友友

友友友

友友友

友友友

友友友友友友
友友友友友友
友友友友友友
友友友友友友

題號	關	係	行	處	分	別	備考						
								團	體	部	數	止	除
維新公論	神新公論社、 片岡駿、中村武	維新公論社	六〇〇	昭和十六年	六	三	二	一	四	三	二	四	處分極ノテ多ク 傾向特ニ不良
まことむす 紙	まことむす 日本俱樂部 紙	まことむす 紙	六〇〇〇	昭和十六年	六	四	二	一	四	五	三	四	維新公論ト同 系
東大陸	東方同志會 機關紙	東方同志會 機關紙	六〇〇〇	昭和十六年	一	九	一	二	三	一	二	二	反政府反國策的 記事多シ
東方時報	東方同志會 關紙	東方同志會 關紙	二〇〇〇	昭和十六年	三	一	四	一	四	一	一	八	右同系
翼贊	皇道翼贊青年 聯盟機關紙	皇道翼贊青年 聯盟機關紙	八〇〇〇	昭和十六年	三	一	二	三	一	六	二	六	反政府不 行勅示煥 エ直ル記 ナス
學生青 年運動	至 鈴木五 一	至 鈴木五 一	二〇〇〇	昭和十六年	一	四	一	三	一	三	一	四	筆致過激反 多シニシテ 處分

思想界 (奮勵指導者)	祖 國	皇道日報	日 本	大亞細亞	鶴鳴報	報國新報
精神科學研究 所 田所廣恭	祖國紙機關紙 北 冷 吉	皇道日報社 福田 延 二	日本新聞社 大石 隆 基	大亞細亞建設 社機關紙 高 村 光 治	鶴 鳴 莊 摺 建 一 甫	報國新報社 田 邊 宗 英
七〇〇〇	三、五〇〇	二〇〇	三、〇〇〇	四〇〇〇	三、三〇〇	四、二〇〇
—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—
不良記述多ク 傾向悪シ	反國策的記述 取扱方相當多シ	不良	反政府的ニシ テ傾向悪シ	特記スベキ傾 向ナシ	直接行動示 傾向不良	大日本勤皇會 系、日本勤皇會 ニ巨ハシクテ

反共情報	愛國新聞	地湧日本	大義	あけぼの	日本及日本人	大陽大日本
國際反共聯盟 機關紙 井田磐楯	愛國社 岩田愛之助	地湧日本社 内田剛藏	アジア青年社 兒玉與志夫	あけぼの社 大岸賴好 (三三六號)	政教社系 入江種矩	大日本赤誠會 機關紙
三、〇〇〇	四、五〇〇	二、〇〇〇	四、〇〇〇	五、〇〇〇	四、〇〇〇	四、五〇〇
二	二	七	六		一	四
四	一	一	一		二	一
一	一四	八	一		六	一六
三	一	二	一		一	一
三	一	一	一	一	二	一
一	二〇	四	三	一	八	六
一	二	一	一		一	一
一	一	一	三		一	一
一	七	四	八	二	四	九
比較的穩健ナル 千時ニ政府部内 指導者ヲ攻撃ス ルコトアリ	政治經濟ニ關シ 不浪記事ヲ掲 載スルコトアリ	時ニ政治不信記 事ヲ掲載スルコ トアリ	指導者層及内閣 評議等スル不穩 記事多シ	時ニ政治不信ニ 關スル記事ヲ取 扱フコトアリ	筆致穩健	往々政治不信ニ 巨ル傾向アリ

本	維新大日	舉國	天照	日の光	錦旗論	大日本新聞	國體學雜誌
	やまごむすび 佐々井一晃	舉國社 白柳卯三治	天照義團 山下幸弘	皇道自治會機 關紙 佐藤慶次郎	大日本錦旗會 機關紙 本田梅三	大日本新聞社 宅野田夫	理見文化研究 里見岸雄
	五〇〇〇	一〇〇〇	八〇〇	一〇〇〇〇		二〇〇〇	二〇〇〇
	二	一	一	六	一	三	一
	一	一	一	一	二	一	二
	八	四	三	四	三	一七	四
	一	一	一	二	一	一	一
	一	一	一	一	一	一	一
	五	六	五	五	五	六	八
	一	一	二	二	一	一	一
	一	一	三	一	一	一	四
	七	一	四	三	四	一	一
	無シ 特異ナル傾向	向無シ 特記スベキ傾	四傾向不良	政治不信記事多 滿國民不平 滿對立 撥七筆致 撥七筆致	四傾向稍々不良	時ニ筆致不穩ニ 巨ルコトアリ	証史學 ル異 往々アリ

月刊皇道	維新運動	維新	すめら文化	大孝	新興民間	國粹同盟
皇道會機關紙 中村德太郎	大日本一新會 永富以徳	大日本同志會 機關紙 松本徳明	皇道文化社 田尻幸人	大東塾 影山正治	皇民實踐協議會 機關紙	國粹同盟 新田贊平
一三〇〇	三〇〇〇	七〇〇〇	一五〇〇	三〇〇〇	二〇〇〇	一〇〇〇〇
一	三	一		四		
一	一	一	一	一		
一	六	三		一		
一	一	一				
一	一	一	一			一
一	九	四				一
一	一	一				一
一	一	一	一			一
四	十二	一		四	八	五
政府不信ノ記事 ヲ取扱フ傾向有ク ナリ最近協調的	傾向稍不良	傾向良好	國內改革ヲ論 スルニ當リ時不 穩宜クナリ	反政府反國策的 記述比較的多ク 傾向悪シ	時々問題ヲ論議ス ルニ當リ往々矯激 ニ當リ傾向稍々不 良ナリ	時ニ直接行動ヲ 是認シ傾向稍々 不良

一新	古事記研究	東亞聯盟	原理日本	建設	啓明	維新魂
大日本一新會 吉田益三	古事記研究會 日本論叢社 岩田一	東亞聯盟同志會 機關紙 石原莞爾	原理日本社 藪田胸喜	建設社 橋本又治郎	啓明社 宮下爲友	大道塾 河上利治
	1,700	10,000	1,000	1,000	1,000	1,500
	1				3	
	2				1	
	6				2	
	1				1	
	1				1	
	4	2		1	4	
	1	1		1	1	
	1	1		1	1	
	1	1		3	3	
比較的確健方	古事記研究ニ 關スル諸論 ナリ取扱ヒ穩健	帝國ノ對滿政策 殖民地政策、反 對的記事多シ	特異ノモノ無 シ	特記スヘキ傾 向ナシ	比較的確健方	特ニ犯罪 スル等ノ傾向 アリ

明倫新報	大機	東亞細亞	國民評論	回天時報	國民建設	猶興
明倫會聯合會 機干紙 三谷四郎	天開打開期成 會 吉孤堂	東亞細亞社 相澤保和	國民評論社 小林五郎	大日本青年同 志會機關紙 池田弘	日本國體研究 所 機關紙 緋田丁	光心塾 德田宗一郎
20000	20000	50000	30000	15000	40000	20000
			1	1		
			1	1	1	
2		1	1	2	1	
1			1	1		
1			3	1		
				1		
				1		
1			3	1	3	6
無シ 特記スベキモノ	無シ 特記スベキ傾向	傾向良好ナリ	3 傾向良好ナリ	1 筆致穩健ナリ	3 傾向良好ナリ	6 筆致不良ナリ

會週報	八光	明朗魂	愛國	愛國學生	瑞穂	大日
國策研究會 大藏公望	八光會 山本英輔	明朗會檢關紙 日比和一	愛國同志會 機關紙 大島 高精	愛國社 紙 藤原 繁	瑞穂俱樂部 小林順一郎	大日社 大庭吉良
二〇〇〇	三〇〇〇	六〇〇〇	三〇〇〇	一〇〇〇	四五〇〇	二〇〇〇
一				一	一	一
二				一	一	一
五				二	四	三
一				一	一	一
一				一	一	一
五			二	一	三	九
一				一	一	一
一				一	一	一
四		二		一	二	九
特記スヘキ傾向 ナシ	特記傾向ナシ	特異傾向無シ	筆致穩健ナリ	特異、個同無シ	特記スベキ傾向 無シ	不良傾向無シ

時局	神政	内外労働週報	労働時報
江村 孝平	神政社 菊地 弘泰	内外労働研究所 鈴木 文治	産業労働調査所 關根喜四郎
1,000	500-1,000	600	1,000
1	1	1	1
1	1	3	2
1	4	5	2
1	1	1	1
1	1	1	1
1	1	1	8
1	1	1	1
1	1	1	1
1	1	1	1
1	1	1	3
		特記スベキ傾向ナシ	特異傾向ナシ

東天	正劍	血淚	維文 新化	聖戰	時興 報時
東天塾 中村政衛	四王天信孝 研究所 四王天信孝	橫山仙太郎	日本主義文化 同盟機關紙 田尻隼人	聖戰社 足利健之	
	五〇〇	二〇〇〇	一、五〇〇		
一	一	一	一	二	一
	一	一	一		一
	三	一	一		一
			一		
			一		
			一		二
			一		
			一		
一			一		三
青森		神奈川			

三

	柴 雲			照 明		天 鼓
	柴 雲 莊 佐藤吉次			愛知赤誠會系 水野万平		金澤勸防熱談 會大山俊雄
	二〇〇〇					二一六〇
	一			一		一
						一
				一		三
						一
				一		
				愛 知		石 川

の國 光魂	化東 爾文 欄	大和 魂	女王 化道	大新 道	火柱
	東亞文化園會 藤村又彦	大日本鐵道青 年會機關紙 佐原勇吉			静岡赤誠會系
	1000	1000			
			-		-
			-	-	
	=	=			

文神 化代	琴 郷	東方公論	時明 報倫	世日 紀本	殉 國	論東 叢亞	發皇 陽道
	紙琴 橋郷 孝三 郎	東方公論社 荻原 新市		日本世紀社 藤田貞吉郎	大日本殉國會 機關紙 增井潤一郎		皇道社 今泉定助
	3000	1100		17000-15000	11000		10000
二	一	一	一	二	二		
一		一		一	一		
一		一		三	四		
一		一					一
一		一					
二		一				一	
一	二	一					
一		一					
一	二	一					